

JCC08春夏 ジャパン・クオリティー発信へ

— 10 —

紡績の素材を使った製品作り
気に入ったニットや織物を見
ても設ける。古色
を再現。また、手機も置き、
つけた来場者を、そのまま
来場者が実際に機を織ること
ジネスゾーンの各社単独ア
も可能だ。ここを起点に、協
動も果たす「インデックス
も検討中だ。
み地・織物や大正紡績の糸の
役割」ことになる。

JCCも年々出展

ム会場とイベントスペースの
間という最も人通りの多い場
所に100平方メートルの規模を予
「五大陸の特選コットン」「オ
現した1・8倍×2・3倍の
がささやかれる

JCC発の旋風 巻き起こせ

定。ここに、普段から取り組
むアパレル7社、機業9社、
ニット16社、タオル4社、
レース、手芸糸、染色各1社
の計29社で「手技の夢工房」
をテーマにコラボレーション
展示を行う。

展示方法にも工夫を凝ら
す。ブース入り口付近に靴下
編み機とミシンを置き、大正
まり、大正紡績のブースで、
展示する「日本の匠」コーナ
が、こういった状
況をなんとか挽回
したいという思いが同社には
作って、参加者が楽しめるJ
C」を目指している。これを
きっかけに「今回出展してい
強い。そのために自社の利益
だけなく「川中企業を持つ
「阪南ブランド」だけなく「川中企業を持つ
「石垣島のサトウキビ」「土佐
したモノ作りで、JCC発信の
「近藤健一取締役営業
部長」と意気込む。

同社の展示ブースは、プロ
モーションゾーンのフォーラ

大正紡績

JCCを通じて、川中企業の存在感をアピールする（写真は、会場に掲げるジャカード世界地図タオルのミニチュア版）

